

家庭教師の女子大学生が
教え子にレ○プされる話し。



小説モーメント

—某ホテル

夜、都内のホテルで弓子は彼氏と落ち合い、部屋に入るやいなや、動物のように求め合った。

彼氏の相葉敦也は木原弓子にキスをする。

「んっ……ふう……ちゅっ敦也あ……好き」

弓子も首に手を回し、舌を絡ませてくる。

小ぶりの胸を揉みながら、左手は弓子のお尻も撫でる。

柔らかくて弾力のあるお尻だ。

そして、少女のスカートの中に手を入れ、太腿をさすり、秘部へと指を這わせる。既にそこは濡れていて、シヨーツの上から軽くなぞっただけで水音がした。

「あぁん……」

甘い声を漏らし、愛液はじつとりと溢れて来る。

弓子の彼氏こと、敦也はシヨーツを脱がし、立ったまま、足を開かせる。そしてゆっくりと柔らかい女の淵へ、中指を第二関節まで潜らせていく。すでに濡れているからか、

すんなり入った。

中指を出し入れする度にグチュグチュという嫌らしい水音が鳴り響く。

グチュ、グチュ！

「あん……………あつ……………気持ちいいよお……………もつと奥までしてえ……………」

さらに人差し指を増やし、二本の指を根元まで挿入し動かす。

「ああ……………んっ！……………すごい……………いい！」